

教育および認定システム



専門看護師

更新率 : 89.5%

1. 看護系大学院修士課程修了者で日本看護系大学協議会が定める専門看護分野の専門看護師カリキュラム総計26単位を取得していること
2. 実務研修が通算5年以上。そのうち3年間以上は専門看護分野の実務研修。このうちの6ヶ月以上は修士課程修了後の実務研修であること

認定審査

- * 書類審査
- * 筆記試験

認定審査

- * 書類審査
- ・活動報告書
- ・研修実績
- ・研究業績等の看護実績報告書

認定更新

日本国の保健師、助産師、および看護師のいずれかの免許を有すること

実務研修5年以上
そのうち3年以上は認定看護分野の実務研修

認定看護師教育課程修了
(6ヶ月・600時間以上)

認定審査

- * 筆記試験

認定審査

- * 書類審査
- ・活動報告書
- ・指導、研修、学会の参加等への発表等自己研鑽の実績報告書

認定証 交付・登録

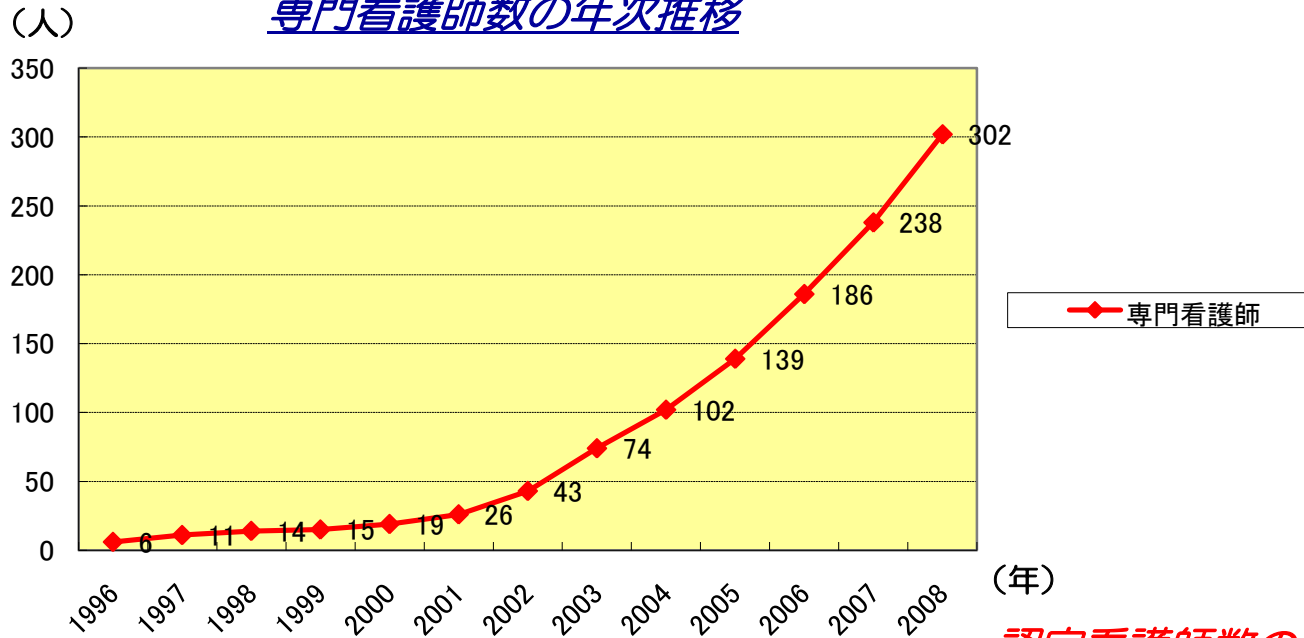
(5年ごとの認定更新)

更新率 : 89.4%

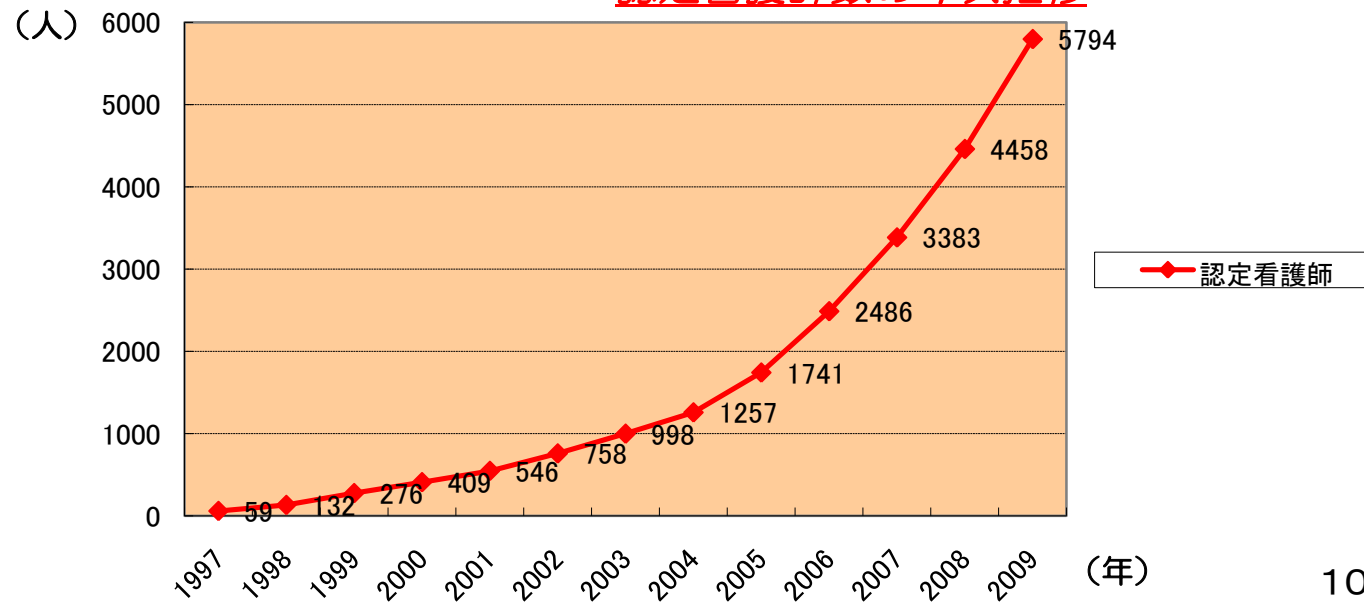
認定看護師

専門・認定看護師数の年次推移

専門看護師数の年次推移



認定看護師数の年次推移



一般看護師と専門・認定看護師の違い

ジェネラリスト (一般の看護師)

特定の専門あるいは看護分野にかかわらず、どのような対象者に対しても経験と継続教育によって習得した多くの知識・技術・能力を、その場に応じて発揮する。

協働

スペシャリスト (専門性の高い看護師)

特定の専門あるいは看護分野で卓越した実践能力を有し、継続的に研鑽を積み重ね、その職務を果たし、その影響が患者個人に留まらず、他の看護職や医療従事者にも及ぶ存在である。

当院における専門・認定看護師の活動状況

病院規模・入院病床数＝520床 1日平均外来患者数＝2500人

専門看護師		認定看護師	
がん看護 (看護管理室、緩和ケア病棟、 オンコロジーセンター)	3名	がん化学療法看護 (オンコロジーセンター、 外科病棟、小児科病棟)	3名
		乳がん看護 (ブレストセンター)	1名
急性・重症患者看護 (救命救急センター)	1名	救急看護 (救命救急センター)	2名
		透析看護 (腎センター)	1名
小児看護 (小児医療センター)	1名	皮膚・排泄ケア (看護管理室)	1名
		訪問看護 (訪問看護ステーション)	1名

がん看護専門看護師の横断的活動

緩和ケアの実践

- 緩和ケア外来での相談支援（専門看護師面談枠設定）
- 電話相談への対応
- 緩和ケアチームでのコンサルテーション活動
- 緩和ケア病棟運営の支援

がんサイバーの支援

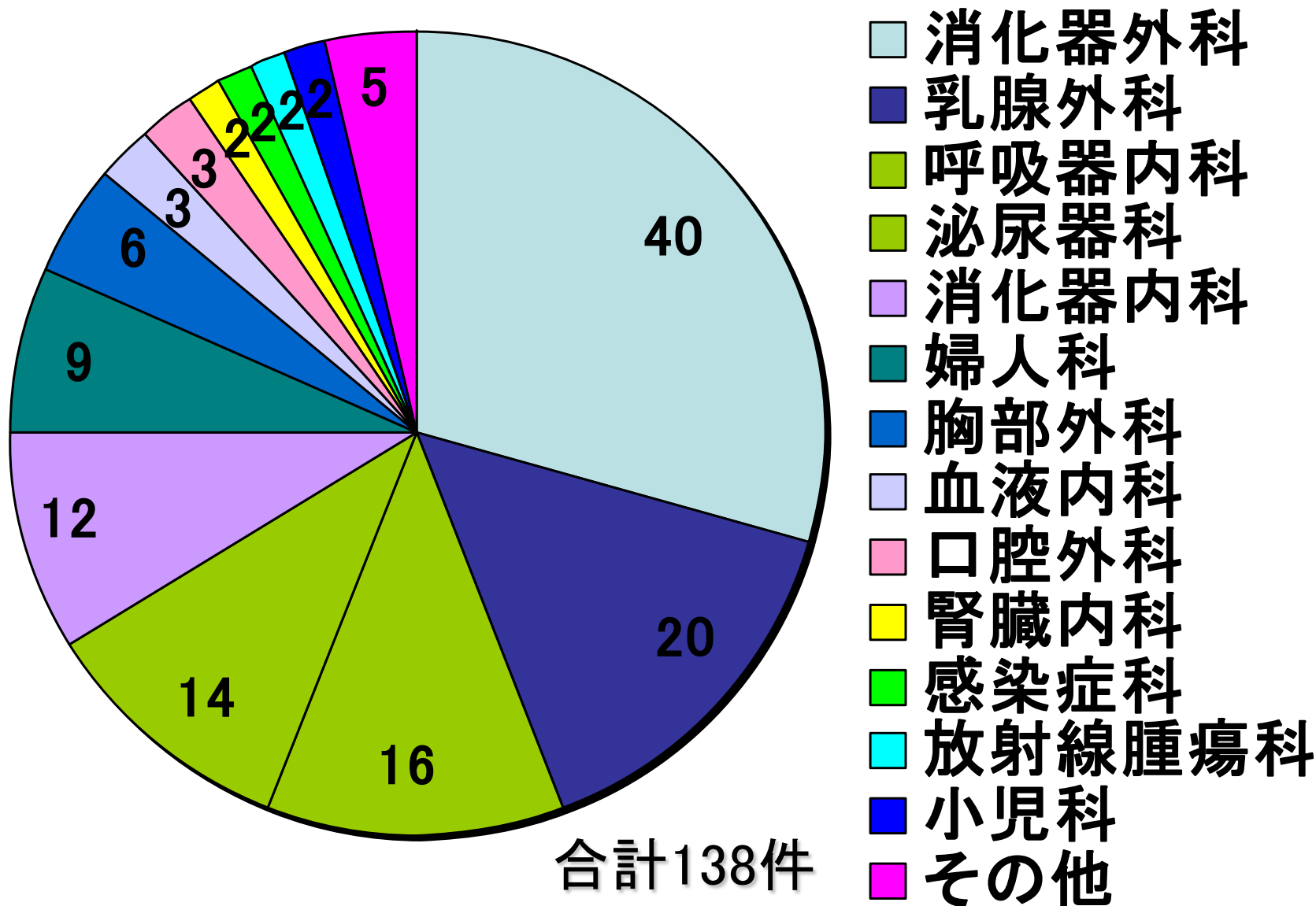
- がん治療と緩和ケアのコーディネーション
- 患者・家族のためのサポートプログラムの開催

看護師の教育

- 教育プログラムの開発 オンコロジーナースの育成
- 研修生の臨地実習指導
- 臨床研究への参加 看護研究・発表の推進

がん診療連携拠点病院としての役割遂行

08年度 当院緩和ケアチームへの依頼診療科



緩和ケアチームにおける主な役割分担

医師	<ul style="list-style-type: none">* 症状の原因を検索し、診断する* 適切な処方をおアドバイスする
薬剤師	<ul style="list-style-type: none">* 処方薬歴の把握* 検査値の把握(肝・腎機能への影響を考察)* 薬剤の効果・副作用・相互作用などの把握* 服薬指導
看護師	<ul style="list-style-type: none">* 患者・家族・医療者にとっての問題の明確化* 患者のQOL、全人的苦痛の視点からのアセスメント* 患者の病状理解や意思決定のサポート* 薬剤の選択あるいは対処方法の根拠の共有* 患者・家族・医療者に対するケア上のアドバイス

チーム医療の成果

- ・ 複数の視点を得ることで、患者を多角的に見ることができる
- ・ 話し合うことで、総合的に判断できる
- ・ 患者中心に目標を定めることで、方針の統一を図ることができる
- ・ 各々の専門性を発揮することで、質の高い医療が提供できる
- ・ 多職種が結集することで、多くのニーズを満たすことができる
- ・ 協働することで、互いの理解が深まり補い合うことができる

チーム医療実現に向けて 専門性の高い看護師に期待される行動

- ・ 各々の組織の特性や状況を見極め、ニーズに合致した活動を行う (個人がやりたいことではない)
- ・ 根拠に基づいた知識・技術を活用し、患者にとって有益なケアを効率的に提供する (倫理的視点に立つこと)
- ・ 専門領域においては、協議の上である程度の権限を持つと同時に、限界をわきまえる (自律と責任)
- ・ 自己の役割や活動内容を明文化し、評価の視点をもつ
- ・ 他職種の専門性を理解し、それぞれの強みを生かして互いに支え合う (他者を信頼し受け入れる風土づくり)
- ・ 日常的にもコミュニケーションを良くし、調整役を担う
- ・ 新たな取り組みにおいては、リーダーシップを発揮する